

男体山(茨城)道迷い(2012年1月)

登りでの道迷い。段々、急な坂になり最後は崖になった。戻るにも急な斜面を滑るように下りたが、本ルートに戻り事なきを得た。



解説

尾根道を登っていくと、ルートが尾根道から外れ、トラバースになる。しかし、そのまま尾根を登ってしまう「道迷い」は、今回の事例に限らず比較的多く発生している。

ピークの南側は、「岩崖」の地図記号があり、行き詰ることが覗える。急な登りは何とか登れても、下りでは、「よく、こんな所を登ったもんだ」と思うことがある。まさに、この事例もそのとおりである。

冷静な判断な末、トラバースの正道まで戻り事なきを得たが、冷静さを失っていた場合、「あと少しで頂上だ」と判断し、崖を攀じ登ることも考えられる。しかし、危険な崖を登るのは、やはり冷静さを失っている為の行動であり、やってはいけないのだ。

今回の事例は、行き詰ってからではあったが、冷静な判断をして事なきを得たので、紹介させていただいた。

追記

登山口で予測する場合、上記の2か所は特徴物として分かりやすく、とらえておきたい。